

Grace Mahya

グレース・マーヤ



The Look Of Love / Grace Mahya

4カ国語を自在に操る、驚異のCross-Culture 感覚派アーチストが衝撃デビュー!

JazzyでハートフルなSplendid Voiceと、超絶甘美なPiano Styleが織り成す独自な世界観・・・

01. The Look Of Love / 02. My Favorite Things
03. The Boulevard Of Broken Dreams / 04. Tennessee Waltz
05. Ribbon In The Sky / 06. Danny Boy / 07. Caravan
08. La Chanson D'orfee / 09. Sixteen Tons
10. My Way / 11. You Are So Beautiful

Produced by 伊藤八十八
Arranged by Grace Mahya & 河野啓三
Recorded at Sony Music Studios Tokyo

■パーソナル
グレース・マーヤ (Vocal,Piano)
河野啓三 (Keyboards)
須藤満 (Bass)
坂東慧 (Drums)
小沼ようすけ (Guitar) on ~1.4.5.8
越田太郎丸 (Guitar) on ~2.3.6.7.9.10
宮崎隆睦 (Saxophones) on ~2.3.7.10
仙道さおり (Per) on ~1.3.7.8.10
Mamadou Lo (Per) on ~4.5

VRCL-11003 Hybrid Disc (CD&Super Audio CD)
¥2,940 (税込)
2006/10/18 RELEASE

グレース・マーヤの歌声に初めて触れたのは、業界関係者でごった返す盛大な立食パーティー (@ STB139) での初お披露目ステージだった。華やかにドレスアップして登場し、〈The Look Of Love〉1曲だけを歌つて袖に消えた彼女の印象は、その宴の場の空気も作用して「新人でありながら随分とまあ、落ちついた風格のコだな…」という程度のものだった。

数日後、今度はワンマンLIVE (@ Jz. Blod) を観て、そのキュートな存在感、MCで「私はジャズに出遭ってまだ2年なんですが(笑)」と屈託なく語る自然体ぶり、ゆえに日々吸収中であるコトの歓びを全身に漲らせている向日性、日本語・英語・ドイツ語・フランス語を自在に操りながら嫌味な感じを微塵も感じさせない独特の親近感…等にたちまち、魅せられてしまった。「こんな才能

間を取って心に染みてくるロシアの音楽が好きだった」らしい。「好きなもの以外は完全にブロックしてしまう性格」の少女は日本の流行歌も子供向け番組にも無関心で、「唯一『ルパン三世』と、なぜか能の番組だけ(笑)」に興味を示す子供として育つ。ドイツ留学時代は「クラシックとテクノの両方に親しむ日々」を送るが、アメリカン・ポップスやロックの類い、スタンダード・ナンバー やビートルズの名曲も「最近になるまで全然知らなかった」と明かす。

ジャズは留学中にほんの3ヶ月間だけ、「いつも譜面どおりに弾くガチガチのクラシックの生徒たちがアドリブの崩し方などを学ぶ」一つの教養科目として習い、触れたのみ。が、そんな彼女がなぜ、どうして帰国後はジャズに接して、その「運命的な」邂逅からわずか2年で“期待の新人ジャズ・シンガー”

アノが得意ならばもったいないから弾き語りをしてみたら」と獎められ、初めてジャズを齧る。大学の3ヶ月間で習ったコトが大いに役立った。「初めて弾き語りに挑戦した瞬間、もお、ジャズに一目惚れしました!」と明かすマヤが後日購入したマイナス1、そのピアノ抜きの教則CDでドラムを叩いていたのがバイソン氏だったという“宿命の構図”も面白いが、とにかくマヤという天才ピアノ少女は今秋、「グレース・マーヤ」として我々の前に衝撃登場した。

4ヶ国語を理解する彼女のドイツ生活中、最大の事件は「もちろん9・11」。さまざまな言語の報道番組が流されているEUのTV環境下では「イラクで深夜、爆撃がありました。とにかく音声だけでもお聞きください」と2分間ほど、爆音や人々の叫び声、なかには子供たちの声も聞こえてきて

大輪の「華」が咲く予感!

驚異の新人、“ジャズの神に選ばれる”までの足跡。

text by JazzToday 編集部

VILLAGE

が一体全体、どう花開き、どう咲いたのだろうか!?"というが本人に会うまでの最大の関心事となった—2歳で鍵盤に触れ、3歳からクラシックピアノ/ヴァイオリン/バーを習い、4歳でピアノコンクールで初入賞。「いざれ海外に出てゆく際に役立つから」との母親の考えから横浜のアメリカン・スクールに入学し、9歳でパリに夏期留学を。やがてドイツのフライブルグ国立音楽大学ピアノ部門に入学し、大学院まで進んで帰国する…という英才教育の流れを網羅するだけでも思わず溜息が出てくるが、真に興味ぶかいのは「将来はバレリーナになってほしい」との願いを込め、「マーヤ・プリンセス・カーヤ」というロシアのバレリーナに因んで、長女を「マヤ」と命名した母親が常日頃言ひ聞かせてきたという“教え”的ほうである。

緻密な英才教育の舵取りをしながら、母親はいつも「いろいろな経験をしなさい。生きなければ音楽はできませんよ。庶民の生活が分からぬ人間はそれだけの音色しか出せないものなのよ」あるいは「自然体でいるコトが一番大切な。音楽も同じですよ」という信念を愛娘に伝えてきたという。

一方の本人は、少女時代から「暗くて重い、いつも雪が降っているような、たっぷり

としてCDデビューするまでに転身したのか。「日本を離れ過ぎたし、しばらく自分の側にいて欲しいという母の希望も汲んで」一時帰国したマヤは、「そのうちドイツに戻って向こうで暮らすつもりだった」が「何かバイトをしないと生きていけないから」実家の前にあるファーストフード店で働いてみたが、「マニュアルの日本語が上手く話せないし(笑)、女の子は白い靴下を履くという就業規則が理解できなくて(笑)」5日と続かなかった。ピアノの才能を活かせるバイトなのでは、と思って飛び込みでジャズBarの扉を叩き、「断わるにしても、とにかく1曲だけでも聴いてからにしてください!」と売り込んだら、「歌えるの?」と聞かれて「思わず『歌えます!』と応えて(笑)」ぶつけ本番のオーディションに臨む。が、知っている

曲は「母親が大好きで私のララバイでもあった〈Tennessee Waltz〉と〈ケ・セラ・セラ〉しかなかった」ので、果敢にもそれを披露する。即席の歌伴を頼まれたバイソン片山氏は「呆れてスティックを落とした、と今でも笑い話で言いますね(笑)」という光景が展開された。

ところが「その歌が妙に受けてしまって採用され、件のベテラン・ドラマから「ビ

…今でも想い出すと涙が出てきますが、そういう日本ではありえない報道のありようを体験できた」。母国語の違いがそのままバイアスの相違につながり、バイオリンガルの彼女は自然と複数の見解を前に思考する。そんなマーヤが歌う初々しいジャズ・チューン—ネイティヴな発音が“ジャズの神に選ばれた”天性の声質と併走し、とても目下勉強中の新人には思えない。聴く側がどこか、その歌声に“若さを越えた母性”を覚えるのも「いろいろな経験をしなさい。生きなければ音楽はできませんよ」と教えてきた少女の生き方が投影されているからに違いない。グレース・マーヤ、大ブレイクの予感がする!

Grace Mahya Live Schedule

- 10/26 横浜 Bar Bar Bar (Tel : 045-662-0493)
10/30 橋山莊イベント (Tel : 03-3943-1140)
11/02 六本木 alfee (Tel : 03-3479-2037)
11/07 大塚 GRECO (Tel : 03-3916-9551)
11/10 横浜 KAMOME (Tel : 045-662-5357)
11/14 新宿 DUG (Tel : 03-3354-7776)
11/17 青山 D's Bar (Tel : 03-5785-9360)
11/19 丹沢 青山莊 (Tel : 0463-75-2626)
12/11 横浜 KAMOME (Tel : 045-662-5357)
12/14 青山 D's Bar (Tel : 03-5785-9360)
12/16 銀座 ヤマハ (Tel : 03-3572-3135) ※入場無料
12/25 新宿 DUG (Tel : 03-3354-7776)
12/26 新宿 DUG (Tel : 03-3354-7776)

【Official Web Site】
www.gracemahya.com